



舞鶴市議会最年少議員

鴨田あまつ通信

後援会だより Vol.06

発行/鴨田あまつ後援会
舞鶴市字境谷158
TEL0773-75-0800
mail k.akitsu3@gmail.com



国難を乗り越える。

今、日本人がやるべきこと

世界中に猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響により、我が国においては、政府による一斉休校要請や東京2020五輪の開催延期、そして緊急事態宣言の発出など、これまで経験したことがない状況に直面しております。皆様方におかれましても、経済の打撃はもとより、楽しみにしていた文化・スポーツなどのイベントの中止など、市民生活への影響は計り知れません。

舞鶴市議会3月定例会においては、感染拡大の防止の観点から傍聴をお断りする史上初めての傍聴禁止議会の断行や、会期中においても当初予定がなかった学校の休校に伴う予算措置、国から降りてくるコロナ関連の施策に対応するための急遽の補正予算など、会期中に矢継ぎ早に追加議案が上程される異例の定例会となりました。

今、私達に必要なことは、正しい情報を得て、正しい行動をすることです。SNSなどで様々な情報が蔓延する中で、悪質なデマや批判一辺倒の記事を頻繁に目にしますが、今だからこそ、自分の見識をしっかりと持つことを心掛けて、大切な人を守る行動を皆でとって行きましょう。

しかしながら、リーダーシップを取るべきは国であり、首長であります。責任所在の曖昧、自粛要請に対する保障の曖昧など、我が国はいざという時に法体系が機能しないことが明白になりました。国会は今こそ現実に即した法体系の見直しが真剣に議論される時であり、国民1人ひとりが国を動かす時でもあります。私も引き続き、地方から声を届けて参ります。

2020年4月吉日 鴨田 秋津

令和2年
3月定例会

保育士不足対策と子どもの貧困問題等について問う!

舞鶴市は「子育て環境日本一」を掲げております。

まずは、昨年4月から新設された乳幼児教育センターについて、開設後約1年が経過した今、どのように機能しているのか。これからどう有効活用していくのか等について質問。

次に**保育士の確保**については、これまで一貫して堅持してきた待機児童ゼロですが、令和2年4月から**待機期児童が発生する見込み**となりました。その主たる要因は保育士不足です。そこで、保育士に対する更なる処遇改善や職場環境の効率化などについて質問しました。

最後に**子どもの貧困**についてですが、子どもの貧困に対する市の考え、現在までの取り組み、そして**NPO法人などとの連携**を強化する考えについて質問しました。

1. 子育て環境日本一を目指すまちについて

- (1) 新設された乳幼児教育センターの機能・役割について
- (2) 保育士の確保について
- (3) 子どもの貧困について



(1)については、舞鶴市乳幼児教育ビジョンの基本理念に掲げる、主体性の育成や、自己肯定するこころの教育を目指し、市内のこども園や幼稚園、小中学校等と連携し、取り組んでおり、研修会の開催や相談窓口などの機能がありますが、今後はそれらを**さらに充実させていく**との答弁でした。

(2)については、保育士への処遇改善として、民間保育士1人当たり月額8,000円の補助を4,000円増額し、**12,000円に上げる**こと。かつ補助対象は常勤職員のみでしたが、**非常勤職員にも拡大**するとの答弁でした。令和2年4月から適用されます。また保育士の負担軽減として、保育日誌などを効率的に作成できるようICT化を促進していくとの答弁でした。

(3)については、従来から国や府と連携しながら、子どもの貧困対策に取り組んでおり、今後は子どもの貧困を次期策定の子育て育成プランに位置づけ施策を推進していくとの答弁。また行政のみならず、NPO法人などとの連携は大変重要と認識しており、今後、NPO法人などの意向を踏まえたうえで**支援・連携**するとの答弁でした。

質問の動画は
ユーチューブ
YouTubeで
いつでも閲覧できます



令和2年度の予算編成を中心に

今定例会では第1号議案から第31号議案までを審議。毎年3月定例会は予算案があがってきます。その年に市が行おうとしている各種事業や工事など、皆様が納めている税金がどのような目的で、どのように充てる計画なのかを審査します。本当に市民のために有効的に使用されようとしているか。偏りはないかなど、市民目線で審査することが極めて重要です。

= 未来を拓く学びの環境整備事業について =

令和時代を生きる子ども達にとっては、従来の一斉教育だけではなく、個別最適化された創造性を育む教育の実現が重要であり、ICT教育で次世代の人材を育てる必要があります。そのためには、児童生徒向けの1人1台の学習者用PC端末と、学校の高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することは急務であり、こういった整備を令和5年度までに実施しようとする自治体を支援する、文科省のいわゆる「GIGAスクール構想」を活用して、舞鶴市も実現していこうという事業です。

今後の計画は、まず今年度中に全小中学校の通信ネットワークの環境整備を行います。

学習用端末は今年度にもまず2,100台(小5、6、中1を中心)

3年度に2,200台(中2、3を中心)、4年度に1,900台(小3、4を中心)

最終の5年度に残りの1,000台(小1、2を中心)を配備する計画です。



討 論

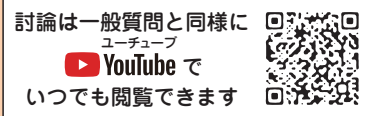
令和2年度の予算では「心が通う便利な田舎暮らし」実現に向けて示された、3つのまちづくり戦略が掲げられております。

第1に、心豊かに暮らせるまちづくりについては、「舞鶴版Society5.0 for SDGs推進事業」と「子育て環境日本一を目指すまち」が予算の主な重点事項として計上されております。

次に第2の安心のまちづくりについては、近年多発する災害にそなえた、「防災・減災対策の強化」等に重点が置かれています。

最後に活力あるまちづくりについては、「赤れんが周辺等まちづくり事業」等に重点が置かれています。

これらの詳細については、討論で述べておりますので、動画をご確認ください。



鴨田秋津プロフィール 1981年11月11日生まれ(38歳)

【学歴】拓殖大学経済学部 卒 【趣味】柔道(5段)、魚釣り

【家族】妻・子ども3人(1男2女)

柔道教室で子ども達の指導をはじめ、各種団体に青少年育成活動等を行っています。



終わりに

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、国の全国一斉休校の要請により、舞鶴市は3月3日から小中学校の休校措置がとられております。突然の事態に保護者の皆様、学校関係者の皆様、また法人の皆様は対応に追われたことと思います。

私も夫婦共働きで小学生の子を持つ父ですから、その対応に苦慮しているところです。

新型コロナウイルスは子どもが感染率が成人と比べて低いこと、重症化する確率が低いことが分かってきましたが、ワクチン等が開発されていない段階では、確定的なことは言えずやむを得ないと考えています。

一方で、憲法第二十六条には以下のように明記されています。

すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

子ども達の学ぶ権利は絶対的に保障されるべきで、では休校中に家庭でどのような学びを提供するのか。皆さんもテレビ等でご存じの通り、すぐにオンライン授業等を導入した自治体もあれば、舞鶴のように従来通りプリントを配るだけの自治体があり、すでに全国で大きく差が付いているわけです。先に触れたように、今後学校のICT化は必須であり、教育委員会が先頭に立ってこれからの時代に即した教育をやっていく。そして保護者、教員も対応していかなければなりません。引き続き、子育て世代の議員として市に提言をし参ります。

編集部よりひとこと

編集部です。大変な世の中になりました。この先どうなってしまうのかという不安な日々を過ごしています。コロナと共存する世界を見据えて、これから何が必要で、何が不必要なのか。またこれまでの常識が常識ではなくなりましたので、私達も変わるチャンスだと思っています。それと政治により関心を持つ機会にも繋がったのではないのでしょうか。これからの国、これからの舞鶴を真剣に議論するきっかけになったと感じています。

地域の要望等、些細な事でも構いません。是非お気軽にご相談下さい!

TEL:0773-75-0800 mail:k.akitsu3@gmail.com

インターネットでは、日々の活動をより詳細に更新していきます。ぜひご覧ください。

ウェブサイト <https://kamoda.info/>
facebook <https://www.facebook.com/akitsu.kamoda>
twitter <https://twitter.com/AkitsuKamoda>